

N E W S R E L E A S E

2011年11月8日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2011年9月中間期 決算概要

【2011年9月中間期の概況】

国内の建設機械市場は、昨年から続く更新需要の増加に加え、東日本大震災の復旧需要や本格的な復興事業に向けた前倒し需要が発生し、レンタル向けを中心に大きく伸張しました。油圧ショベルの国内上期総需要は、重機・ミニショベルともに前年同期比で4割強増加しました。

海外の建設機械市場（海外事業の上期対象時期は1-6月）は、総じて堅調に推移し、前年同期比で重機ショベルが約3割、ミニショベルは4割程度増加しました。世界最大の油圧ショベル市場である中国は、金融引き締めの影響により足下の需要は低下しているものの、春節明けの4月頃までは順調に需要が拡大したため、前年同期比で3割程度増加しました。日・米・欧を上回る市場に成長している東南アジアの重機ショベル需要も、前年同期比で3割程度増加しました。欧米市場においては、依然として本格回復の水準には至らないものの、他地域と同様に回復傾向を示し、需要は増加しました。

昨年から恒常的に部品が逼迫していた状況下で、東日本大震災が発生したことにより、コベルコ建機グループは、部品供給不足から国内外で一時的に生産が休止するなどの影響を受けました。6月下旬からは部品供給も回復し、グループ一丸となって生産量の確保に努めた結果、国内での販売台数は、重機・ミニショベルともに前年同期比で増加しました。また、海外でも前年同期比で販売増となりました。生産量を上回る受注を頂いたことによる受注残の積み上がりを下期にかけて解消すべく、更に生産体制を整えてまいります。

コベルコ建機グループは、2010年度からスタートした中期経営計画3カ年の折り返し点を迎えました。幸い、主力商品の油圧ショベルは低燃費・省エネ製品として顧客から支持されています。また、部品サービスの充実や、きめ細かなサービス網の拡充にも努めてまいりました。グローバルな体制整備では、中期経営計画の方針である『中国事業の更なる成長』、『インド事業の基盤確立』、『東南アジア地域での収益拡大』の実行に向けて着々と布石を打ってまいりました。

五日市新拠点（広島県）は、来年5月に稼働を開始する予定で、本年6月に起工式を執り行いました。グループ全体の開発・生産・調達面における総司令塔としての機能を果たし、グローバルな事業展開に向けて製・販一体となって準備を進めています。

これらの結果、2011年9月中間期（2011年4月～2011年9月）の業績は、以下の通りとなりました。

< 2011年9月中間期の実績 >

{ 単位：百万円、()内は前年同期比 }

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	2011年9月中間期	180,181 (+2.6%)	19,812 (1.0%)	18,552 (1.5%)	4,684 (21.5%)
	2010年9月中間期	175,614	20,008	18,837	5,968

(小数点以下切捨)

連結の売上高は、国内事業が414億円（前年同期比+3.2%）、海外事業が1,387億円（同+2.4%）で、全体としては1,801億円（同+2.6%）となりました。連結売上高の海外比率は、77.0%となり、前年同期（77.1%）とほぼ同じになりました。

【2011年9月中間期の事業別状況】

国内事業

国内では、公共投資が引続き低迷しましたが、震災の復旧・復興事業を背景とした新車需要が発生し、レンタル業界を中心に需要は拡大しました。重機・ミニショベルともに需要は前年同期比で4割強増加となりました。

震災の直接的な被害はなかったものの、コベルコ建機グループは、部品供給面でのサプライチェーンに大きな影響を受け、国内のみならず、海外の生産活動にも影響が出ました。増加する需要に生産が追いつかない状況が続きましたが、7月以降には増産体制を整え、また、復旧・復興事業に従事する稼働機の増加に対応するためのサービス拠点強化にも努めました。その結果、重機・ミニショベルともに前年同期比で約2割の販売台数増となりました。今後も、国内は重要な市場と位置づけ、震災復興需要にもタイムリーにお応え出来るような体制を整えていく予定です。

五日市新工場（広島県）に関しては、予定通り本年6月に起工式を執り行い、来年5月の完成に向けて順調に建設工事を進めています。また、グループ全体の生産および開発の最適化を狙ったグローバルエンジニアリングセンター（以下：GEC）の準備も計画通り進めています。国内生産現場での徹底した生産性向上活動と原価低減（VE）活動を推進しながらコスト競争力を強化し、国内で培った成果をGECを経由して海外の生産拠点にも展開していく予定です。

中国事業

中国では、政府による金融引き締め政策などから、5月以降急速に需要が減退しましたが、今上期（1月-6月）の春節前後が好調に推移したため、需要は前年同期比で3割程度増加しました。コベルコ建機グループでは、昨年以降続いている部品不足により、前半の急増する需要を効果的に取り込むことが出来ず、前年同期比で1割弱の販売増にとどまりました。部品が逼迫した重機ショベルと比較して、ミニショベルは順調に販売台数を拡大させることができました。

足下の油圧ショベル需要は減少していますが、中長期的には西部大開発の10年延長や水利事業計画など、具体的なインフラ整備が継続し、今後も需要は伸びていくものと予想しています。コベルコ建機グループでは、次の成長タイミングに向けて、メーカー直営の主力サービスセンタの充実、4S代理店（セールス、スペアパーツ、サービス、サーベイ）の育成・構築にも注力しました。

海外事業（中国事業を除く）

中国を除く海外においては、CNHとのグローバルアライアンスに基づき、コベルコ建機グループの主担当地域であるAPACエリアを中心とした事業展開に取り組みました。

APACエリアは、経済成長にともないショベル市場も比較的堅調に推移しました。東南アジア全体の需要は、前年同期比で3割程度増加しました。同エリアで最大の市場であるインドネシアにおいては、販売拠点の拡大、サービス網・サービス要員の拡充整備、部品倉庫の充実などに引き続き取り組みました。タイ工場では、生産量の拡大とグローバルな生産体制構築に向けた整備を行いました。また、本格的に現地生産を開始したインドでは、現地調達率を高めるべく現地部品の品質確認を行いながら、徐々に生産を拡大させています。

海外全体の重機ショベルの販売台数は、前年同期比で1割弱上回りました。また、部品調達が比較的早く回復したミニショベルは、2割強増加しました。

市場構成比率

今上期のエリア別売上高構成比率は、以下の通りとなりました。中国比率は55.2%（前年同期 58.1%）、先進諸国の日・米・欧は28.6%（前年同期 25.3%）、その他、東南アジア・豪州他の新興国は16.2%（前年同期 16.6%）となりました。グローバル化が進展する時代にあって、成長する市場に積極的にアクセスする姿勢を今後とも堅持してまいります。

【今後の重点課題と2011年度の見通し】

世界最大市場に成長した中国では、調整局面が続いているものの、国内での震災復旧・復興需要や東南アジアを中心とした新興国の堅調な需要に支えられているほか、欧米市場でも緩やかな回復傾向を見せていることから、急激な変化はないものと予想しています。中長期的に、巨大な人口や資源を有する新興国が、需要拡大の牽引役になっていくと想定しています。

コベルコ建機グループでは、成長著しい新興国のなかでも中国、東南アジア、インドなどのAPACエリアに重点を置いた事業活動を今後も行ってまいります。また、喫緊の課題である震災影響によって積み上がった国内の受注残を一刻も早く解消し、製品をお客様のもとへお届けすることに注力してまいります。

不透明で激動する事業環境のなか、事業の永続的発展を図るべく2010年度からスタートとさせた中期経営計画を着実に実行し、差別化商品を生み出す技術開発力強化、『低燃費のコベルコ』の更なる追求、コストダウンと物流改革、拡大する新興国市場でのプレゼンス向上など、引き続き競争力強化を図るとともに、部品サービス・販売拠点網の拡充、調達分野などでもグローバルなネットワークの構築に取り組んでまいります。

具体的には、グローバルな生産体制の一環として、来年5月に完成する五日市新工場へのスムーズな移転と、世界に広がる生産拠点で『最適生産体制』を確立していくためのGECの立上げが直近の課題となります。また、体質強化の一環として部品の内製化にも引き続き努力してまいります。

< 2011年度通期の見通し >

{ 単位：百万円、 () 内は前年度比 }

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期連結見通し	315,000 (+0.6%)	24,000 (-14.9%)	23,000 (-12.6%)	5,000 (-27.7%)
前期連結実績	313,143	28,186	26,303	6,920

(2011年度下期における為替レート前提： 1米ドル=80円、1ユーロ=115円)

* 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上

平成24年3月期 第2四半期決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL: 03(5789)2111
代表者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長	三木 健
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 80%)	
	CNH Global N.V. (当社株式の保有比率: 20%)	

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	180,181	2.6	19,812	1.0	18,552	1.5	4,684	21.5
23年3月期第2四半期	175,614	68.3	20,008	541.1	18,837	702.9	5,968	-

	1株当たり四半期純利益
	円 銭
24年3月期第2四半期	14 63
23年3月期第2四半期	18 65

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	339,863	58,117	12.0
23年3月期	285,065	48,301	12.5

2. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	315,000	0.6	24,000	14.9	23,000	12.6	5,000	27.7

*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。